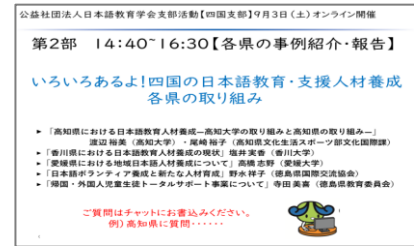


2022 年度支部活動【四国支部】開催報告
「四国の日本語教育・支援人材養成～地域とのつながりを求めて～」

主催：公益社団法人日本語教育学会
共催：学校法人四国大学
後援：徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県国際交流協会
開催日：2022 年 9 月 3 日（土）13:00-16:40
会場：オンライン（zoom）
参加人数：95 名（会員 42 名，一般 53 名）



9 月 3 日（土）に四国支部活動「四国の日本語教育・支援人材養成～地域とのつながりを求めて～」をオンラインで開催しました。当初は対面実施を基本とし、人数限定でリアルタイム配信を行う形式で計画していましたが、急激なコロナウィルス感染拡大のため急遽全面オンライン実施に変更しました。

支部活動は、第 1 部「講演」、第 2 部「シンポジウム」の 2 部構成で行いました。第 1 部は鳴門教育大学の田中大輝氏をお迎えし、「大学院における日本語教育人材養成と地域との連携」という題目でご講演いただきました。講演の前半は「大学院の日本語教師養成課程」について文化庁の資料をもとにした全般的なお話とし、「日本語教師養成に関する研究例」をご紹介いただきました。後半は、「鳴門教育大学大学院における日本語教師養成と地域連携」に焦点を当てお話いただきました。ご講演の最後には、養成課程修了生の進路・就職先に関する現状から、「大学院においてどのような人材を育成しようとしているのか」について検討が必要であると今後の課題を述べられました。

続く第 2 部では、「いろいろあるよ！四国に日本語教育・支援人材養成 各県の取り組み」と題して、各県の日本語教育関係者からご報告いただきました。大学における日本語教員養成においては、文化庁の「必須の教育内容」を網羅しつつカリキュラムを構成している事例やコロナ禍における日本語教育実習の工夫などが紹介されました。地域においては、養成講座やスキルアップ講座をオンラインで開催している事例等の紹介もありました。また、外国人児童生徒に対する日本語支援においては、教育委員会が中心となり支援者の派遣等を行うと同時に研修会を開催している事例も紹介されました。時間の関係上、質疑応答はチャットでの対応が主となりましたが、終了後の意見交換会には 35 名の参加があり、地域日本語教育・支援人材養成を考える貴重な機会となりました。

支部活動終了後の参加者アンケートでは、「大学院の状況や四国各県の状況がよくわかった」「地域の日本語教育に関する企画を今後も期待」等好意的なコメントも多かった一方で、「気さくに話せる機会があるとよい」「資料を配布してほしい」等の意見もありました。オンライン開催については、「オンライン実施」「対面+オンライン配信」など、9 割近くがコロナ後対面に戻ってもオンラインで参加できる選択肢を残してほしいという希望がありました。今回の支部活動の意義は、「四国内の日本語教育関係者のネットワーク構築のきっかけとなる」ことを第一の目的として実施した 2021 年度の活動を引き継ぐことでもありました。参加者の約 6 割が四国内で占められたことは今回の目的達成に十分であったと思われますが、参加者の過半数が一般の方であったことにも注目したいと思います。次年度以降も昨年度生まれた四国の「つながり」を維持・発展させるとともに、今後も地域に開かれた支部集会・支部活動を継続していきたいと思えます。

今回の支部活動は、開催 2 週間前の対面からオンラインへの変更となりました。四国内の運営協力員をはじめとする多くの方々のご協力のおかげで、このような有意義な形で開催し、終わることができました。当日ご参加くださった皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（報告者：四国支部活動委員：元木佳江・高橋志野）